



「地域ケア会議」の根拠法令

介護保険法 改正案（地域ケア会議関係抜粋）

第115条の48

市町村は、第115条の45第2項第3号に掲げる事業の効果的な実施のために、介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門的知識を有する者、民生委員その他の関係者、関係機関及び関係団体（以下この条において「関係者等」という。）により構成される会議（以下この条において「会議」という。）を置くように努めなければならない。

- 2 会議は、要介護被保険者その他の厚生労働省令で定める被保険者（以下この項において「支援対象被保険者」という。）への適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、支援対象被保険者が地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うものとする。
- 3 会議は、前項の検討を行うため必要があると認めるときは、関係者等に対し、資料又は情報の提供、意見の開陳その他必要な協力を求めることができる。
- 4 関係者等は、前項の規定に基づき、会議から資料又は情報の提供、意見の開陳その他必要な協力の求めがあった場合には、これに協力するよう努めなければならない。
- 5 会議の事務に従事する者、又は従事していた者は、正当な理由がなく、会議の事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。
- 6 前各項に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、会議が定める。

第205条

- 2（略）第115条の48第5項の規定に違反した者は、1年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

地域ケア会議について

地域ケア会議とは

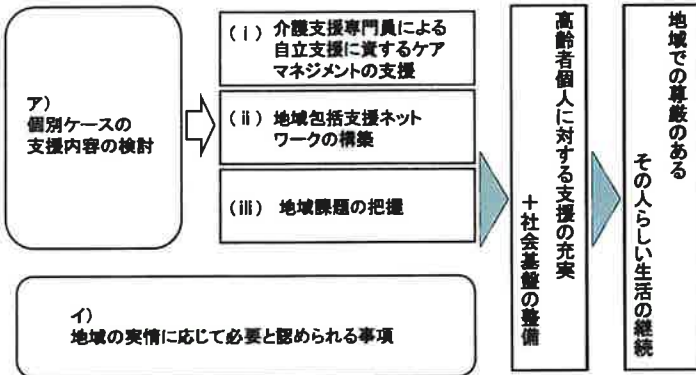
地域ケア会議は

- ① 高齢者個人に対する支援の充実と、
- ② それを支える社会基盤の整備とを同時に推進し、「地域包括ケアシステム」を実現させるための重要な一手法

出典：地域ケア会議運営マニュアル平成25（2013）年3月一般財団法人 長寿社会開発センター



「地域ケア会議」の目的



地域ケア会議は単に個別ケースの支援内容を検討することによって個別の課題解決を行うだけでなく、これらを通じ（i）に示すような介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントに関する実践力向上、（ii）の地域包括支援ネットワークの構築、あるいは、これらのプロセスから支援体制の脆弱さ、社会資源や人材の課題が浮き彫りになることにより、（iii）に示すような地域課題の把握を行うことを目的としています。

（参考）「地域包括支援センターの設置運営について」（平成18年10月18日 厚生労働省老健局振興課長ほか連名通知、最終改正：平成25年3月29日）

「地域ケア会議」にあがる事例



● 地域ケア会議が有効と考えられる事例

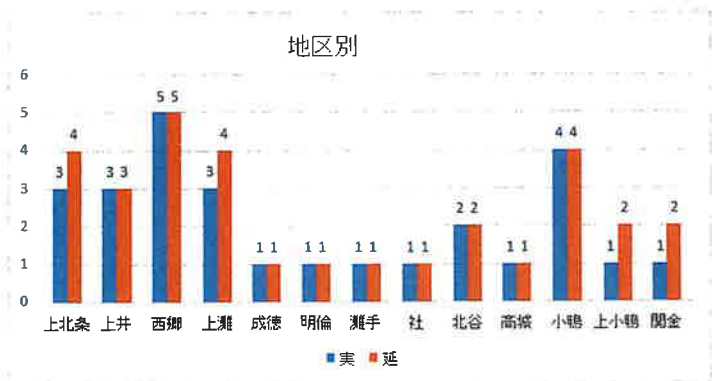
- ① 支援者が困難を感じているケース
- ② 支援が自立を阻害していると考えられるケース
- ③ 必要な支援につながっていないケース
- ④ 権利擁護が必要なケース
- ⑤ 地域課題に関するケース

『地域ケア会議運営マニュアル』P42～P60

令和3年度に、地域包括支援センターが開催した地域ケア会議の結果を、考察しまとめた。

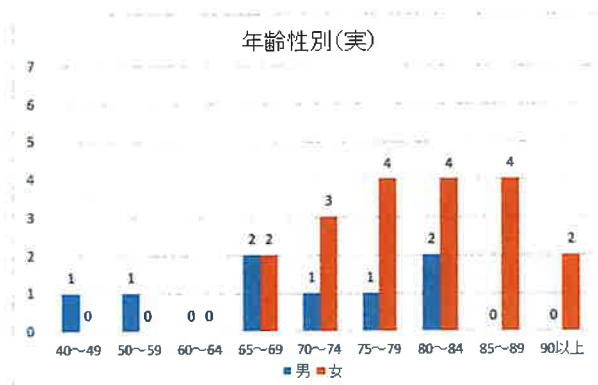
地域ケア会議開催件数 実27件
延31件

地区別開催回数



・西郷5件で一番多く、次いで上北条、上灘、小鴨が4件だった。
・突出して多い地区は無かったが、全ての地区において、開催されている。

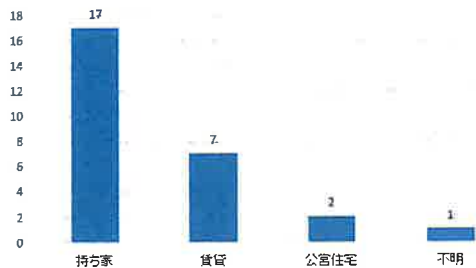
年齢・性別



・男女比は、女性が倍以上と多かった。
・昨年同様、75歳以上の後期高齢者が6割以上を占めている。
・男性8人のうち半分の4人が70歳未満だった。
・女性の6割は75歳以上と後期高齢者が多かった。

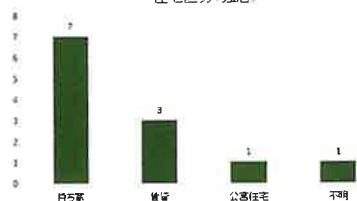
住まい状況

住宅区分



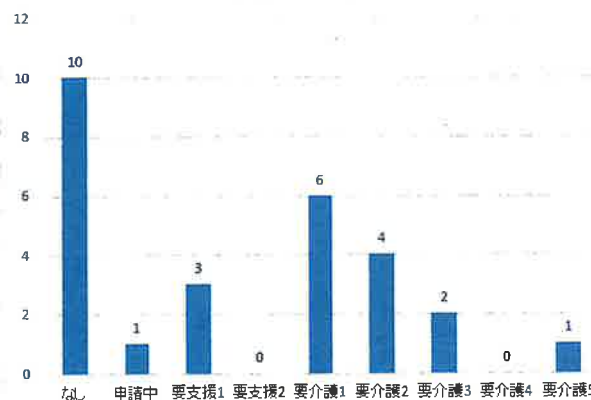
・住宅区分は、持ち家に居住している人が62%を占めていた。
・独居12人中7人(58%)は持ち家があり、将来、空き家になるケースが多いのではないかと推察される。

住宅区分(独居)



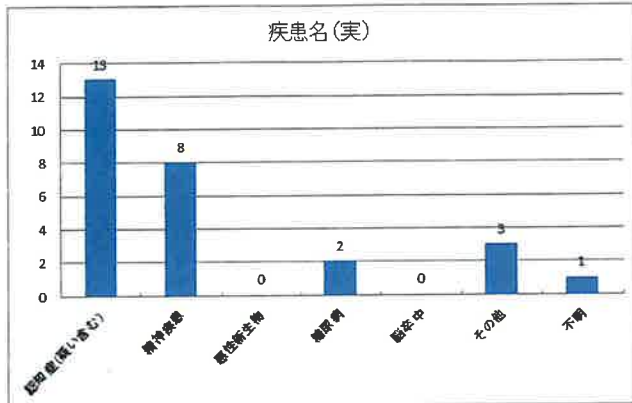
要介護度

要介護度(実)



・要介護認定がないケースが一番多く、10件(37%)であった。
・次いで要介護1が6件(22%)で多かった。
・認定なしと、要介護1は、昨年と同様多い。(R2年度認定なしが19件、要介護1が4件)

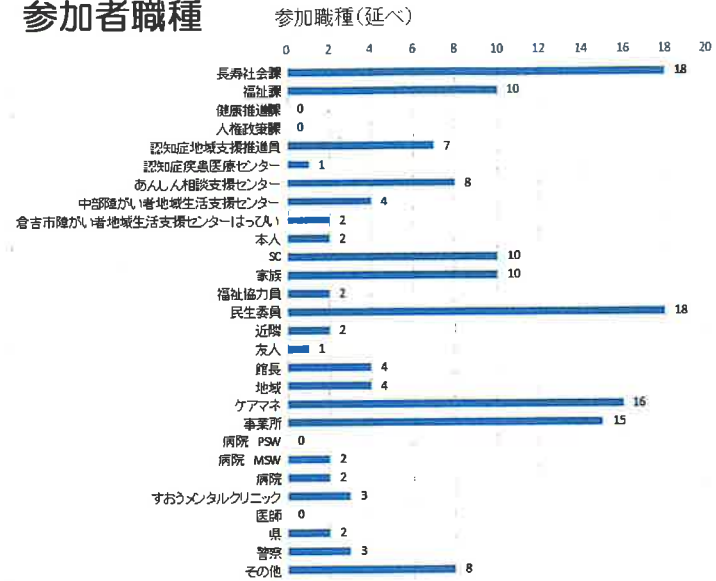
疾患名



- ・認知症（疑い含む）が一番多く、13件（48%）を占めていた。
- ・2番目に精神疾患8件（29%）が多い。
- ・この2疾患で全体の77%を占めている。

9

参加者職種



【その他の内容】
消防署
地区コミュニティセンター館長
知人妻
保佐人
鳥取刑務所
成年後見ネットワークくらしよ
ひきこもり生活支援センター

- ・参加者の職種が多岐に渡ってきている。様々な機関との連携がなされている。
- ・昨年よりもさらに民生委員や近隣住民など、地域住民の方の参加が増えており、地域ケア会議がより定着してきていると思われる。

10

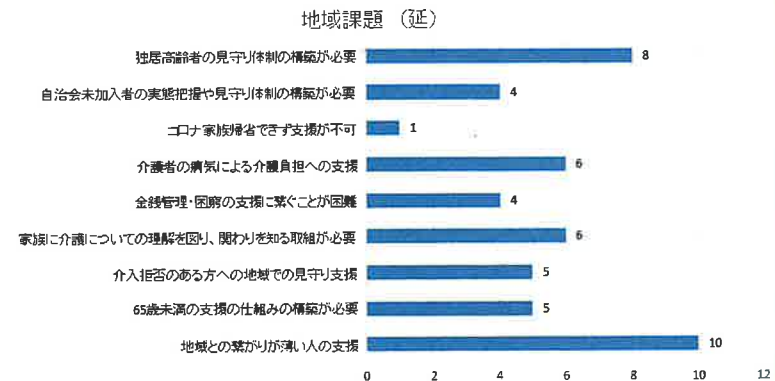
世帯の抱える課題(延)



- ・ケースの世帯の抱える課題の背景をみてみると、本人や家族が障がいまたは認知症（疑われる場合も含む）と、家族が認知症への対応が不十分であるケースが多かった。認知症家族への支援が重要であると思われる。
- ・家族との関わりがなく、あっても不仲であるケースも多く、家族の繋がりが薄い中、支援者が家族関係にも介入して、支援しなければならぬ困難さがあると思われる。

11

地域課題の分析



- ・独居高齢者の見守り体制の構築、特に、地域との繋がりが薄い方への支援方法が課題。
 - ・高齢化により地域の見守り体制の構築が困難である。
 - ・地域の役員も高齢化している。
 - ・家族介護者への介護への理解と、介護負担が過重にならない支援が必要。
 - ・相談先がわからないという人もいる。
 - ・若い世代に介護について知ってもらわないといけない。
- 以上のようなことが求められている。

12

まとめ

◎みえてきた最大の課題

『**独居高齢者の見守り体制の構築、特に、地域との繋がりが薄い方への支援方法が課題。地域の見守り体制の構築が困難である。**』

個々の課題

【地域ケア会議について】

・全ての地区において、開催されており、参加者の職種も多岐に渡ってきている。様々な機関との連携が進んでいると思われる。また、特に昨年よりもさらに民生委員や近隣住民など、住民の方の参加が増えており、地域ケア会議がより定着してきていると思われる。

13

まとめ

【独居・認知症】

- ・独居の認知症者の支援に困難が生じている事例が多いと言える。また、自立度から、見守りなど軽微な支援がいる状態の人が多くと予想される。
- ・独居高齢者の見守り体制の構築、特に、地域との繋がりが薄い方への支援方法が課題。
- ・しかし、地域の役員も高齢化しており、次世代のなり手がいない状況で、地域の見守り体制の構築が困難な現状がある。
- ・自治公民館の加入率も低くなっており、この問題ともリンクしていると思われる。
- ・地域によって、認識の違いがある。（借家の人は地域では見ないなど）
- ・独居者の半数は持ち家があり、将来、空き家になるケースが多いのではないかと推察される。

⇒ご自身の将来を考え、死後の財産管理も想定したACP（もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと）について啓発が必要である。合せて、若い世代の独居の方にも、啓発が必要。

14

まとめ

【家族関係】

・ケースの対象は独居と同居家族がある世帯は半々。家族があっても、家族との関わりがなく、あっても不仲であるケースも多く、家族の繋がりが薄い中、支援者が家族関係にも介入して、支援しなければならない困難さがある状況が推測された。

・特に、認知症家族への支援が重要であると思われる。

・昨年同様に、65歳未満で家族に支援が必要なケースもある。

⇒家族介護者への介護への理解と、介護負担が過重にならない支援が必要。

相談先がわからないという人もいる。若い世代から介護について知ってもらう啓発活動が必要。

家族への支援が必要なケースがあることから、65歳以下の支援機関との連携が、継続した課題。

【経済面】

・経済面について、生活保護世帯ケースも高い割合であった。家族があっても、経済的には支援出来ない状況もある。今後は、経済的な理由で、利用したいサービスを、利用できない人が増加することが予測される。

⇒生活支援と合せて、経済支援やお金の使い方の指導など経済対策が必要である。

15

まとめ

【精神疾患への対応】

・介護認定がないケースが一番多く、認知症と精神疾患の2疾患で全体の77%を占めている。また、75歳未満の6割は、精神疾患を罹患していた。

・精神疾患の種類も6疾患と多岐にわたっており、多くの精神疾患を理解して対応する必要がある。

・精神科へつなげる必要性を支援者が感じたケースは25%もあり、精神疾患への対応の困難さがみられた。

⇒昨年同様に精神科医療機関との連携が大変重要な課題となっている。

・医師も交えたケース検討ができることよい。（在宅医療・介護連携推進事業「しよいやの会」の活用、精神科医師との意見交換の場が必要）

【その他】

・本人、家族、住民の理解が得られず、支援の困難さに影響している。

・介護保険のサービスが足りないか、または、サービスだけでは解決できない課題が増えていると考えられる。→この問題を精査していく必要がある。（課題が何かなど）

16